河合委員からの質問及び回答②

資料１－３－４

|  |
| --- |
| 〔施策名〕４　国際理解教育・在日外国人教育の充実（３）在日外国人教育の充実日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜 〔上記資料のページ番号〕25ページ |
| 〔質問内容〕「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」は、帰国・渡日生徒の進路を保証する受け皿として、これまで重要な役割を果たすとともに、全国的にも先進的な取り組みとして実施されてきた。一方で対象生徒の増加、生徒の来日経緯や学習歴、言語的、文化的背景の多様化とともに、対象生徒の実態にあわせた制度の拡充が必要となっているのではないか。府内中学校における日本語指導が必要な帰国生徒、また外国人生徒の在籍数の推移、またこれに対する特別枠の定員設定や設置校の配置、受入後の体制など、事業の実施状況と課題、今後の方向性等についてお聞かせ願いたい。 |
| 〔回答〕　府内中学校における日本語指導が必要な生徒の在籍数の推移は、以下のとおりである。**・（中学校）日本語指導が必要な児童生徒数**（政令含む・夜中除く）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 平成21 | 平成22 | 平成23 | 平成24 | 平成25 | 平成26 | 平成27 | 平成28 | 平成29 | 平成30 | 令和元 |
| 中学校 | 452 | 524 | 477 | 521 | 579 | 512 | 640 | 564 | 751 | 663  | 806  |

※府独自調査・各年度5月1日現在**・受入後の体制**　この日本語指導が必要な生徒数の推移に対して、府教育庁では府立高等学校の要望に応じて、加配教員の配置や非常勤講師の措置をしており、加えて母語を理解する人材を教育サポーターとして派遣している。**・実施状況**入学者選抜においては、中国帰国生徒等に対する特別枠を設定した入学者選抜は、平成13年度から「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」として門真なみはや高校と長吉高校の２校で実施し、平成14年度から八尾北高校、平成15年度から成美高校、平成17年度から布施北高校を加えた、５校で実施している。平成26年度からは、普通科（総合選択制を含む）を含め、すべての高校の通学区域が府内全域となった。加えて、これまでも中国以外から帰国した生徒も対象としていたことから、よりわかりやすい選抜名となるよう「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」に改めた。平成27年度からは大阪北部に位置する福井高校を、さらに大阪市内に日本語の指導が必要な生徒が多く在籍していることを踏まえ、平成29年度からは大阪市北部に位置する東淀川高校を加え、本選抜実施校を７校とした。同時に、本選抜の志願者が多国籍化していることから、選抜名を「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に改めた。平成30年度選抜には、門真なみはや高校と長吉高校、平成31年度選抜には、東淀川高校、福井高校、八尾北高校、令和２年度選抜には、布施北高校と成美高校において本選抜の募集枠を、募集人員の５％から６％に広げた。**・課題**日本語指導が必要な生徒数は年々増加傾向にあり、少数散在化、多言語化が進んでおり、十分な支援ができていない。**・今後の方向性について**ＩＣＴを活用しての遠隔支援を含めた効果的な運用に向けて検討を行っているところ。 |